

【日時】 令和元年11月1日(土) 14:45~16:00 (14:00~14:35は授業見学)

【場所】 本館1階 応接室

【参加者】

(運営協議会委員) 山口 裕稔 会長(槻の木高等学校PTA会長)

宮坂 政宏 委員(株式会社ERP)

田中 隆夫 委員(観世流能楽師シテ方)

山本 冬彦 委員(関西大学文学部教授)

(槻の木高校) 大西 雅美 (校長)

(事務局員) 飯田 卓 (教頭)

山本 尚 (首席・学校運営室長)

小西 久美子 (首席・学習指導室長)

井上 公彦 (生活指導室長)

(記録) 川代 恵子 (教諭)

矢野 祐子 (教諭)

<開会>

<学校長挨拶>

今朝のニュースでもあった通り、大学入試における英語民間試験導入が延期された。6月、8月の2回にわたり校長会より文部科学省に現場の混乱の状況を伝え、導入の延期をお願いしていたが、ついに決定した。本校は日頃より、試験導入の準備を着々と進めていたし、保護者の協力も得られていたので、今の所大きな混乱は見受けられないが、今後も個別の対応をしていきたい。これからも英語の技能を伸ばすことは重要で、社会で活躍するために必要なスキルであるので、英語教育の強化を引き続き続けたい。今日は学校経営計画の進捗を中心にこの会を進めたいと考えている。

<委員及び事務局員紹介>

<会長挨拶>

- ・令和の年度が始まった。今後も槻の木高校のますますの発展を願っている。

<今年度の学校経営計画進捗状況> (大西校長)

- ・新カリキュラムに沿った授業内容を考え、生徒の本当の力を育て、進路実現につないでいく。
- ・各教科、学習習慣を身につけさせる事を1つの柱としている。考える力を育てるために、レポートやグループ討論を活用した授業展開も増えてきている。
- ・新カリキュラム対応のために、他校からの情報収集や研修を行っている。
- ・国公立大学志望者に対して啐啄サポートを行っている。自習室を適宜活用している。
- ・生徒アンケートによると、1日平均自主学習時間が大幅に増加している。
- ・NEXT STAGE 参加者の満足度は100%に近い。
- ・志望大学に実際にいってみよう声かけをしている。直接見る事で得られる効果は大きいようだ。
- ・昨年は災害で大変だったが、今年は猛暑で生徒の体調管理への配慮が必要であった。今年からWBGT計が導入された。

- ・遅刻者数が増加している。ただし、特定の生徒の遅刻が多い現状がある。
- ・今年度、韓国研修は中止となったが、ビデオレターを通して交流を行った。タイ研修は1月に予定している。
- ・今春人事が大きく動いて、若い先生が増えた。日常業務が忙しくOJTをしている暇がない上、本校は大職員室がなく大きく3つの職員室に分かれているので、情報共有が難しいが、適宜対応し、適切な生徒対応をしていただいている。
- ・全普通教室にプロジェクターが導入されることに伴ってICT活用について考える“探求プロジェクトチーム”を立ち上げた。今後先進校視察、校内研修、研究授業等を行い、ICTを活用した授業作りを積極的に考えていく予定である。
- ・働き方改革の視点から、クラブの活動予定など根本的な所から改革できるよう取組みを行っている。後期の一斉退庁は18:30でお願いしているが、超過勤務時間を減らすに至っていない。
- ・担任の負担を減らすべく、今年度より副担任制を導入したので、うまく活用し、担任の先生方の超過勤務を減らしたいと考えている。
- ・PTA活動も山口会長を中心にがんばっていただいている。
- ・体育大会、文化祭の保護者、中学生の来校者数が増加した。
- ・体育館のクーラーは次年度より使用可能である。
- ・台風19号のためオープンスクールを中止したが、現在それに代わる取組みを検討している。

#### <授業評価アンケートの結果の報告> (飯田教頭)

- ・高校生活の根幹は授業である。授業評価アンケートは数値の比較ではなく、傾向の確認のために示していると考えていただきたい。後期は12月に予定している。
- ・Q1、Q2については、生徒自身の取組みに関することなので、実技科目の数値が高い傾向にある。
- ・全体的に昨年度とほぼ同程度か若干の減少は、今年度の人事異動者が多かったことの影響もあると考えている。生徒の満足度は高いと感じている。

#### <協議>

(山口会長)

- ・今日は前半に授業見学を行い3つの授業を見学した。感想をお願いします。

(山本冬彦委員)

- ・生徒が頑張っていた。落ち着いている。化学の実験で測り方が気になる場面があったが、教科担当が声かけを適切に行っていたので、問題はなかったようだ。古典はポイントをおさえた良い授業であった。コミュニケーション英語は、生徒に発音練習を元気よくさせれば、もっと良いと感じた。英語と日本語の発音の違いを意識させ発音させるのがよい。ペーパーレスの聞き取り練習は行っているのか？

(英語科 矢野教諭)

- ・コミュニケーション英語ⅠAではしていないが、ⅠBで行っている。

(山口委員)

- ・プロジェクターでの授業が解りやすく、良かった。今度プロジェクターが全クラスに設置されるので、是非積極的に活用していただきたい。

(宮坂委員)

- 昔の授業は名人芸のようで、授業者の業が光っていた。黒板とチョークだけでしっかり生徒に必要な知識を教え込んでいた。それはそれで素晴らしいし、時代のニーズに合わせた学習法を取り入れる事も大事なので、深めて行って欲しい。
- 先生が多忙の中で、研修、研究する時間がないというのは、どこにでもある問題であるが、どうしたらよいか。  
→教員数を増やせば多少は解決するが容易な事ではないし、超過勤務もさせられない。個のスキルも向上させなければならない。ICTの活用でできる事も限られている。
- 子どもが主体的に学びに向かう力をつけなければならない。授業評価アンケートの質問の中で、学びに向かうエネルギーを測れるようにできないか。生徒の姿勢と教員の授業を照らし合わせて考察すべきではないか。“学び方の技術”、“自分で考える力”を様々なレベルで育成しないと、学校経営計画の学習目標の達成は難しい。
- 基本的に全体的な数値は非常に高いといえるが、もっと高いレベルをめざすとなると、新しい事をやりながら、先生方の負担を減らす努力が必要である。

(山本委員)

- 深い学びとは何か。最近の授業は、討論→ワークシートがパックになっていて形式的になっている。私の経験では、討論形式の授業は1, 2年は試行錯誤で、3, 4年続けて工夫すると議論が盛り上がった。
- 大学でも授業に対する工夫がもてられているが、ICT機器の利用のさせ方をこちらが適正に教示することが重要となる。学生の状況を見ながら教えなくてはならない。単に知識を伝えるだけでは生徒がついてこないかもしれない。また、ICTを活用した授業は時間がかかる。それでいて主体的な授業となると構成が難しい。講義形式の授業が全面的に悪い訳ではないので、プロジェクトチームが両面からアプローチした進捗をまた教えていただきたい。

(山口会長)

- プロジェクトチームは、具体的にはどのような事を取組んでいく予定か。

(大西校長)

- 探求のプロジェクトチームは、現行の授業をより深め探求する事を目的として立ち上げた。本校生徒に合わせた探求、特にICTの活用についての研修を計画している。

(山本委員)

- 教科ごとでとことん議論する時間を設定するのは難しいのか。

(山本首席)

- 業務が忙しいので、まとまった時間をとるのは難しい。

(宮坂委員)

- 何かしらの問いについて興味をもち考えることが学習に興味を持つということ。今までに自分と同じようなことを考えた人はいなかったか、心に浮かぶ“どうして?”を大切にさせる。ICTはあくまでもツールである。ICTなどの手段を活かし、解決したときに初めて主体性が生まれる。探求プロジェクトチームはどのような取組みを行っていくつもりなのか。

(山本首席)

- 授業の方法の幅を広げているにとどまっているのが現状である。ICT を上手に使う方法を検討している。槻の木の生徒は段取りの良い授業を求めているように感じることも多くある。現在はライブ感のある授業と段取りの良い授業が混在している状況であるが、ライブ感のある授業から学ぶことは多い。

(宮坂委員)

- 段取りの良い授業をなぜ求めるのか。

(山本委員)

- 社会に出て色々経験をしなければ、議論をさせても白熱しない。受身と主体は表裏一体。課題が昔は社会的にたくさんあったが、今は意図的に課題を作り取り組ませているような所がある。ライブ感は本当に大切に、その時の生徒に合わせて変化させていかなければならない。年によって、議論が本当にうまくいく時もあり、そういう年は成果も出る。大学でも、知識と社会がつながるような生徒が増えると授業はたちまちやりやすくなる。

(山口会長)

- 授業見学をしてアナログな感じがした。プロジェクターを活用すれば、より段取りの良い授業にはなりそうだと思う。段取りが良いだけがいい訳ではないが、聞いていて面白い授業とそうでない授業があると改めて感じた。多忙な中で授業スキルをあげながら、生徒とのつながりも深めなくてはならず、さらには業務の時短も図らなければならない。とても大変だと思うが、世代差もあると感じたので、年配の先生のスキルを若い人が盗んでいけると良いと思った。

(山本首席)

- 若い時は自分もそうだった。それぞれベテランの先生を見て、盗んで、育った。
- 槻の木の生徒は、学力レベル的にも答えがはっきりある、型にはまった授業を好んでいるように感じる。

(山本委員)

- 槻の木の生徒の傾向なのか、最近の傾向なのか。授業にライブ感を出すためには、型をくずす必要がある。

(田中委員)

- 生徒が求めているものをすいあげて、授業ができていのか気がになった。段取りが良い授業はお互いに良さそうだが、それを越えて吸収できているのか心配である。教える時の重要な事はその人から興味を引き出すことである。カリキュラムの中や、学校生活だけでは学べない事がたくさんあることを生徒にも教員にも気づいて欲しい。

(大西校長)

- 先生一人ひとりの個性、話し方などのよい所を活かしながら生徒の実態にあわせた授業をする事が大事である。ICT を先生・生徒が自由に必要性に合わせて使えるよう、一人ひとりが研究していくことが重要である。主体性を伸ばすにはどうすればいいのか、深い学びを達成するには何が必要か、考えていきたい。

(山口会長)

- 本日のまとめを一言ずつお願いします。

(山本委員)

- 山本先生の話に興味があった。我々はもっと学んでいかなくてはならない。時間のない中で先生達が議論できるのが理想ではないか。一枚岩ではなく、色々な先生がいる事がいい。

(宮坂委員)

- 授業評価アンケートで大切にしたいのは、ネガティブな回答の生徒の存在である。一見数値だけを見ると良さそうだが、そこにネガティブな回答をした生徒がわずかながら存在する事を認識しなければならない。なぜ、その生徒はネガティブな回答をしたのかをしっかりと分析し、考えていって欲しい。数値の裏にある背景をしっかりとよみとり、授業改善に取り組んで欲しい。
- 学力の上がる学校は、学びの共同体の一員として同じ方向を向き、規範を守っている。保護者、生徒が、学校を信頼しているかを意識して、槻の木高校にもそのような学校をめざしてほしい。

(山口会長)

- 学校経営計画の数値をみて、不登校気味の生徒が増えているように感じ、気になった。

(大西校長)

- 増えているという訳ではないが、特定の生徒が数字を増やしていることは事実である。一人ひとり様々な悩みや問題を抱えているので、担任を中心に解消できるよう努めたい。

<今後の日程>

第3回 令和2年2月7日(金) 14時~17時 予定